

ニコニコ箱 ありがとうございました

内畑 瑛造さん 家内にきれいな花をお送り頂き有難うございました。又うれしい出来事がありました。

野井 晋さん 赤井さん楽しい企画の家族会をありがとうございました。

村田 昌之さん 家内にお花のお礼。

田原 久一さん 親睦旅行にはお世話になりました。楽しかったです。

松田 洪毅さん 家内に誕生日のお祝いのお花を頂きました。感謝致します。

谷口 文利さん 川口様本日は宜しく願います。

谷口 文利さん 家内にお花を頂きました。ありがとうございます。

宮本 和佳さん 川口様、本日の卓話楽しみにしています。

岸裏 廣澄さん 家内にきれいな花をありがとうございました。

樫畑 友洋さん ポール・ハリス・フェローの表彰ありがとうございます。

赤井 雅哉さん つたない親睦旅行におつきあいありがとうございました。

野上 泰造さん 川口様卓話よろしく願います。

古屋 光英さん 家内の誕生日にお花を頂きありがとうございました。

山本 進三さん マルチプル・ポール・ハリス・フェロー、米山功労者同時の表彰ありがとうございます。

阪神タイガース応援団一同

中山 恒夫さん 15年皆出席表彰
玉置 博康さん 1年皆出席表彰



おめでとうございます!

【本日の累計 83,350円(計15名 17件)(お誕生日お祝い 650,000円 皆出席表彰 175,000円 その他 2,338,381円) 累計額 3,163,381円】

本日の例会 6月16日(木)

- 卓話「若手弁護士の独り言」
当クラブ会員 後 亮さん
- お誕生日お祝い
山本 進三さん 6月5日 野上 泰造さん 6月14日
- ピアノ演奏 中井 利枝さん
追憶(M.Hamlisch)
恋はみずいろ(A.Ropp)

次回の例会 6月23日(木) P.M 6:30 ~ 於 グランヴィア和歌山6F

●ご長寿お祝い例会

前回の例会 6月9日(木)

- 卓話「都市農業の再生に向けて」
JAわかやま組合長 川口 順弘さん
- ロータリーソング 黒田 純一 ソング委員長
「奉仕の理想」
- ビジター紹介 赤井 雅哉 親睦委員長
橋本R.C. 石脇 正雄さん
和歌山城南R.C. 大久保浩美さん
- 出席報告 真野 賢司 出席副委員長
会員数 49名(内出席規定適用免除会員11名)

6月 9日(本 日)	37名	86%
5月26日(メーキャップ後)	39名	90.7%

クラブ名	日 時	内 容
和歌山城南R. C.	6月16日(木)	休会
和歌山南R. C.	6月17日(金)	例会変更
和歌山中R. C.	6月17日(金)	クラブフォーラム
和歌山北R. C.	6月20日(月)	例会変更
和歌山アゼリアR. C.	6月20日(月)	クラブフォーラム
和歌山R. C.	6月21日(火)	2011-2012年度委員会別フォーラム
和歌山サンライズR. C.	6月21日(火)	
和歌山西R. C.	6月22日(水)	「一年を振り返って」乾 昌彰会長 主井 知子幹事
和歌山東南R. C.	6月22日(水)	年間活動広告②

●メイキャップ状況 ● (敬称略)

6月4日(土) 泉州KUMATORIR.C. 松田 洪毅 / 6月10日(金) 和歌山中R.C. 松田 洪毅
6月13日(月) 和歌山北R.C. 山東 勝彦、松田 洪毅、真野 賢司

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ 例会会場/ルミエール華月殿 和歌山市屋形町2-10 TEL (073) 424-9392 例会日 木曜日 12時30分
事務局/〒640-8142 和歌山市三番丁6関西電ビル5F TEL (073)432-4343・FAX (073)432-4845
創立/1959年2月23日 会報・広報委員会 谷口 文利 笹島 良雄 岡野 年秀 堀岡 忠男 角谷 芳伸

「地域を育み 大陸をつなぐ」

「地域に広げよう、友情の輪」

国際ロータリー 第2640地区 **和歌山東ロータリークラブ**

URL <http://www.werc.jp> E-mail info@werc.jp

2011年 6月16日(木)

週報 / VOL.52 No.43(通巻2498)



会長報告

野上 泰造 会長



皆様、こんにちは。会長報告を申し上げます。
橋本RCの石脇様、和歌山城南RCの大久保様、ようこそお出で下さいました。ごゆっくりと楽しんで下さい。
さて、福島原発事故は、なかなか改善の気配が伺えませんが、和歌山では例年のように田植えが真っ盛りです。そして苗の天敵であるジャンボタニシもどっさりと生存し、活動しています。

学名を(スクミリングガイ)と言い、南アメリカのラプラタ川流域が原産です。フランス料理の食材として、1981年に台湾を経由して長崎と和歌山に持ち込まれました。しかし、あまり美味くないので需要が無く、養殖業を廃業し水路に放流してしまったため、今日の状態に至っています。タニシは1年に約8000個のイチゴのような卵を産み、10日程で大人になります。寒さに弱いので関東以北にはいません。よって12月から2月の寒い時に2~3回耕せば死んでしまいますが、繁殖力が大変大きいので全滅させることは不可能です。食べる時は必ず十分に火を通して下さい。決して生では食べないで下さい。

幹事報告

古屋 光英 幹事



- 楠パストガバナーより、I.M.の記録誌のお礼状が来ています。…回覧します。
- こぼと学園だよりが来ています。…回覧します。
- 前回の例会に訪問された川崎南R.C.の西崎様よりバナーをお送り頂いております。…回覧します。
- ガバナーマンスリー6月号に松田ガバナー補佐の「I.M. 3組ガバナー補佐としての任期を振り返って」という記事が掲載されております。
ガバナー補佐に発表して頂くところですが時間の都合で回覧します。
- 次週例会終了後新旧合同クラブ協議会を開催します。クラブ協議会終了後理事・役員会を開催します。

委員会報告

社会奉仕委員会

上中 崇司 委員長



本日例会終了後に、和光院に慰問に行きますので、どうか御参加いただける方は宜しくお願いいたします。

情報規定委員会

岡野 年秀 委員長



今期最後のIDMのご案内のFAXをさせて頂いています。班編成を4班にし、次年度の会長幹事さんにとどの班にも出席していただく事になり、次年度の親睦活動等のクラブ活動の助言をして頂きたいと思っております。

卓 話

都市農業の再生に向けて

JAわかやま組合長 川口 順弘さん



皆様はJAについて既に知っておられることと思いますが、本来どういった組織なのかより深くご理解いただくために、日頃感じていることなどを織り交ぜながらお話しします。

※JAグループの組織概要の説明。

組織の規模等理解頂くため、先般の東北大震災において5月末で建更(建物更正共済)の被害報告棟数310,796棟、共済金支払要件該当棟数193,821棟、それに対し支払完了が94,758棟2,211億円。生命共済は現在全体の10%強である708件110億円となっている。JA共済の支払担保力は、異常危険準備金、共済契約特別準備金で3兆円の備えがあり、全く懸念はありません。全生保の支払予想は1,900億円、簡保700億円、JA共済800~1,000億とされています。

JAとは、Japan Agricultural Cooperativesの略であり、都市化、混住化など時代の変化に対応しながら農業の生産力を高め、農業所得を向上させること、協同活動を通じ豊かに暮らし自分たちの地域を良くしたいという人々の気持に対して積極的に関わり、貢献することを宣言した農協の証である。

私共JAの理念は、相互扶助のもと農林水産業をしっかり支え、農業を通して地域社会に貢献することである。だが、戦後60有余年が経過し、経済が発達する過程でより良い暮らしを他の産業に求めたことで、離農、農地の乱開発が進み、農業は衰退の一途を辿ってきた。戦後の都市計画は大都市を中心に産業と人、情報を集中させ、結果として和歌山市も含め中核都市以上の都市はギスギスした住みにくい街になってしまったと感じる。

そんな反省からか現在、都市農業の存在と農業への評価が都市に暮らす人、地域や自治体、国交省においても、少しずつ変わり、都市と農村の調和ある発展が模索されていると考える。

ご承知だとも思うが、昨年農地法が改正された。

- ①優良農地を守るため、農地転用の規制を厳格にする。
- ②貸借による一般企業の農業参入が出来ることになった。
- ③農業の担い手への農地への集積を図る。

ということであり、殊にこれまで所有と利用が一体化されていたのが分離でき、多様な担い手を育成することで活性化を図ろうとするもので、新成長戦略で農業が成長産業に位置づけられたこともそうであるし、6次産業化法の

制定もその一つかと考える。

また、食料・農業・農村基本計画で、政府は「国民に対する国家の最も基本的な責務として、食料の安定供給を将来に亘って確保しなければならない」と表明し、食料自給率40%を2020年までに50%にするという数値目標を掲げた。その代表的な施策は戸別所得補償制度で、制度の創設で総ての農業者が農業を継続できる環境を整備するということである。

近年の穀物相場は世界的に上昇し、FAO(国連食糧農業機関)の直近の報告では4月の世界の主要食料価格指数は前年比36%増の232(2002~2004年を100)で、穀物価格が史上最高水準となっている。

高騰の原因は途上国の経済成長に伴う需要の拡大、ロシアの小麦輸出禁止による世界的な供給不安(近くウクライナ、ロシアは輸出再開予定)、石油代替エネルギーへの転換、世界的金融緩和による投機資金が穀物市場へ流れ込んだことが挙げられる。

日本は現在、300万tの穀物を輸入する食糧輸入大国だが、将来も海外から幾らでも輸入し続けられる保証はどこにもない、むしろ中長期的にはより不安定化している。チュニジアに始まった中東の市民革命も、元はと言えば若者の雇用、食料の高騰が要因であったし、一昨年アジアの米輸出禁止もロシアの小麦禁輸もそのことを示唆している。いわゆる津波の備えと同じで、100年後に起こるか起こらないのに防波堤や水門に莫大な投資を何故しなければならぬのかの議論と相通ずると思うが、どうでしょうか?

また、日本や韓国の商社や企業がオーストラリアやアフリカで土地を所有し、本国との価格差を利用し農産物を輸入しているが、栽培地の国内事情で輸出が禁止となれば、例えば日本人が土地を所有し生産したものであっても持ち込めなくなるのは明らかである。

食糧の安全保障を考えると、ある程度コストを度外視しても自給率の向上は必要だし、日本の人口が減少し需要も減少するとすれば、農業従事者は減少しても市場原理に沿った農業所得の維持、経営規模拡大はやむを得ない事かも知れない。農政は補助金制度から直接補償制度へと一大転換し新たな農政への期待も大変大きかったが、これからと期待した矢先、突如として平成の開国、TPPへの参加検討となった。

日本は貿易立国であり、自由貿易は何ら否定しない

が、日本の高度な工業製品を受け入れる国々、農産物を戦略的輸出品とする国からすれば、見返りは農産物を100%自由化するしか方向はない。食料自給率を50%にする。1反当り15,000円の所得補償制度を導入した。反当り20,000円を支出するので担い手に農地を集積してくれ。安全・安心な日本の農産物は輸出すれば良い等々。この様な事で我が国の農業は生き残れず、土と一体となった農業は、崩壊は簡単でも元には戻れない訳で、事前の万全の備えが必要ではないだろうか。

幸いと言うか、今月予定していたTPP交渉参加是非への判断は震災で先送りされた。しかし、拙速な判断は何としても避けるべきだと思う。

JAが今出来ることは何かと思案すると、残された農地を持続活用することこそが喫緊の対策だと考え、昨年7月農業生産法人JAファームわかやまを県下で初めて立ち上げた。平成22年は緒についたところだが、利用権数設定は1.8ha、作業受託0.48haあり(平成23年5ha以上を計画)、遊休農地の再生、優良農地の保全と担い手不足、高齢化等で耕作放棄せざるを得ない農家から歓迎されている。

昨年は県の農商工連携事業6次産業化第1号に認定されたジンジャーエールが、発売から11ヶ月で販売100万本に達することができた。発売1年前から開発を進め、本物のジンジャーエールを作り他社と差別化すれば売れると思い、開発促進した。ハイボールなどのPRもヒントになり、生姜ブームも後押しとなった。さらにいかにパブリシティで周知してもらうかにも工夫した。そしてデザインにも意匠を凝らし、特にポスター、6本入り手提げ箱は中でも若い女性の評価が高く人気である。ジンジャーエールの影響で生姜の販売価格も高止まりし、本来の目的である市内産農産物の拡興による農家所得の向上にも繋がったと自負している。

農業の再生を目指すことは、口では容易いが、現実には至難である。しかし、JAがどこまで出来るかは、JAの経営自体が磐石かどうかにかかっており、補助にすぎない他力本願では何も出来ない。それでは組合員のJAへの期待も、農業への愛着心も遠ざかるばかりだということを常に念頭に置き、経営に専念したいと念じているところである。

米山記念奨学会より表彰

米山功労者 山本 進三さん(2回目)



ロータリー財団より表彰



マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 山本 進三さん(3回目)
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 中山 恒夫さん(2回目)
ポール・ハリス・フェロー 榎畑 友洋さん

和光院慰問 2011. 6.9(木)



出席者(敬称略) 赤井 雅哉 乾 敦雄 上中 崇司 岸裏 廣澄 田原 久一 野井 晋 野上 泰造 古屋 光英